

天栄村  
まち・ひと・しごと創生  
総合戦略

平成 30 年 5 月改訂  
天栄村

# 目次

---

I. 総合戦略について .....	1
1. 総合戦略策定の背景と目的 .....	1
2. 計画期間 .....	5
3. 推進・検証体制 .....	6
II. 天栄村の総合戦略 .....	7
1. 基本的考え方と、近未来の天栄村構想としてのチャレンジプロジェクト.....	7
2. 天栄村総合戦略の施策体系 .....	15
3. 具体的施策の展開 .....	16
基本目標1 安定した雇用の確保と地域産業力の強化 .....	16
基本目標2 若い世代の出産・子育て等サポート体制の充実 .....	20
基本目標3 天栄村への新しいひとの流れの創出 .....	26
基本目標4 暮らしやすい生活環境の形成 .....	30

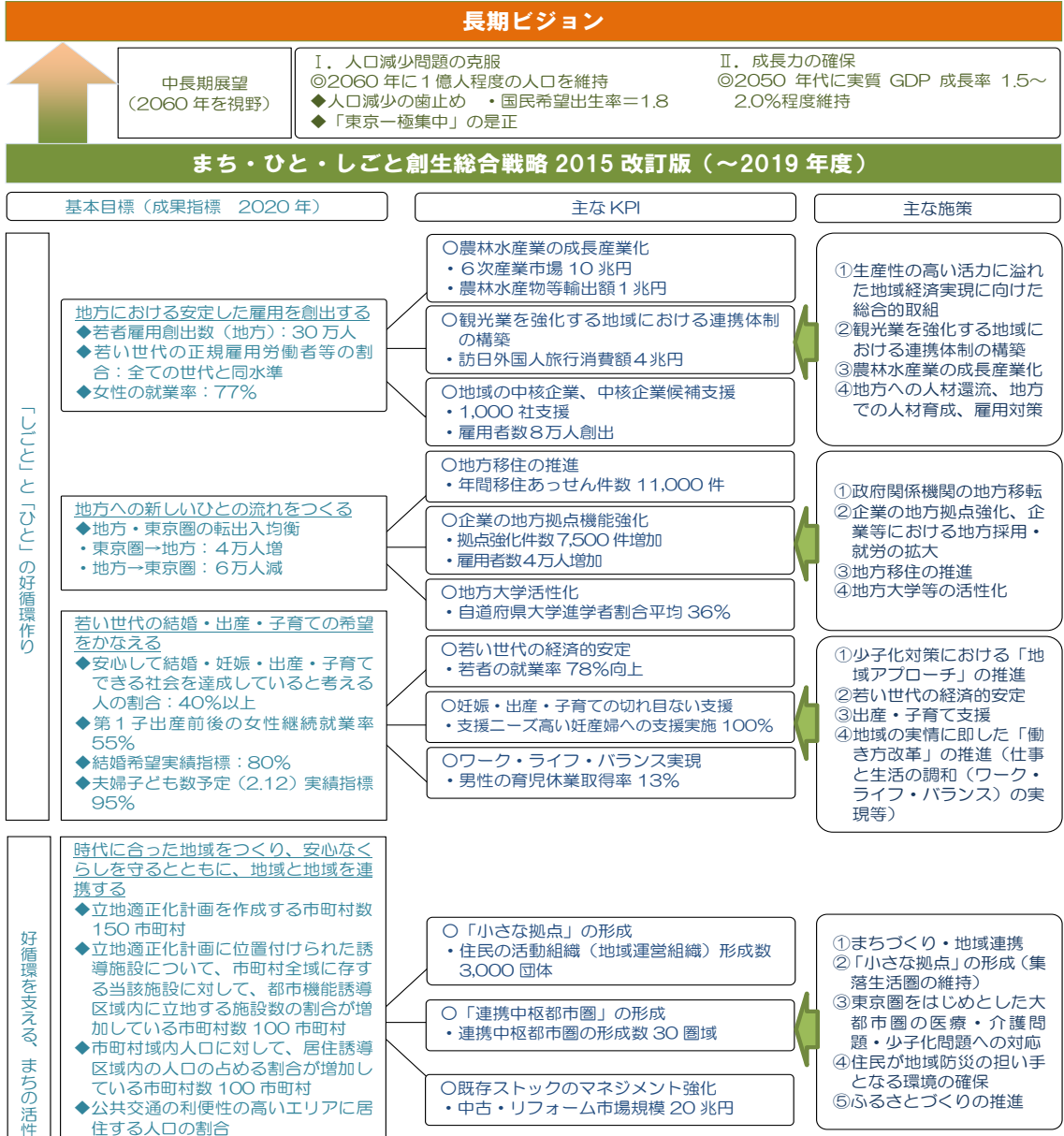
# I. 総合戦略について

## 1. 総合戦略策定の背景と目的

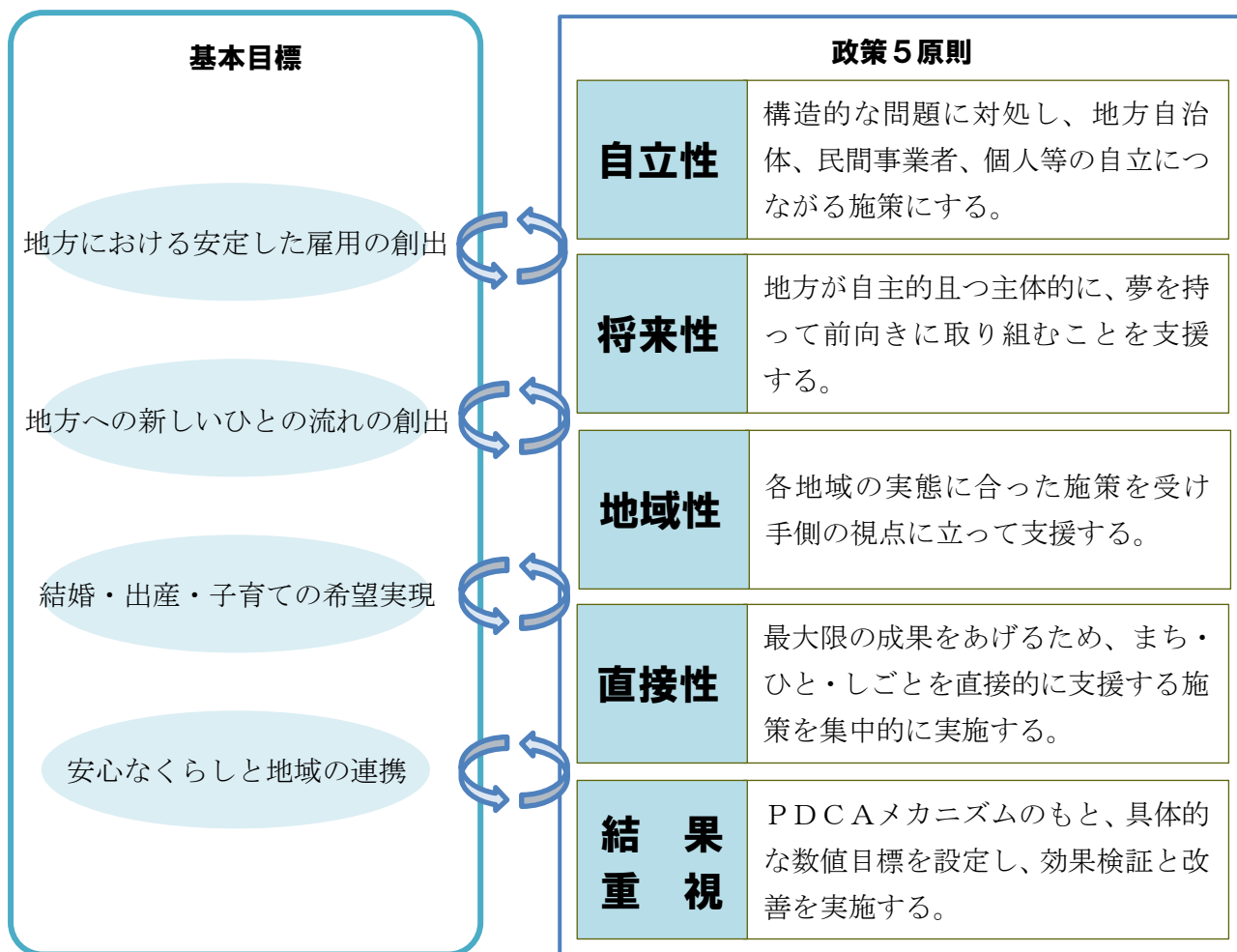
### 【国の“まち・ひと・しごと創生総合戦略”】

人口減少社会に対応するため、平成 26 年 11 月 21 日に「まち・ひと・しごと創生法」（平成 26 年法律第 136 号）が成立しました。同法では、急速な少子高齢化の進展に的確に対応し、人口減少に歯止めをかけるとともに、地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力あるまちを維持することを目的に、市町村版総合戦略の策定を努力義務として規定しています（第 10 条）。

### 【国の長期ビジョン及び総合戦略 2015（改訂版）の概要】



また、国では、まち・ひと・しごと創生に関して、政策5原則を掲げており、地方自治体においては、「地方人口ビジョン」及び「地方版総合戦略」を策定するにあたって、これら5原則に基づく必要があるとしています。



**【福島県まち・ひと・しごと総合戦略】**

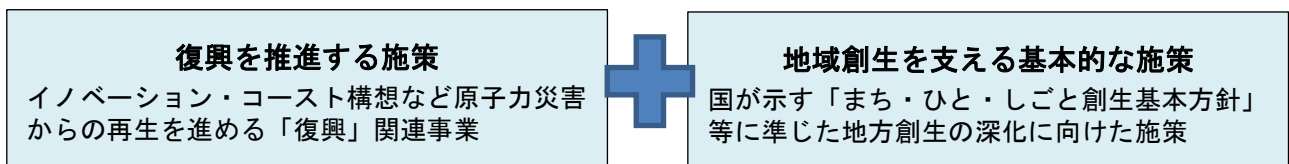
「福島県まち・ひと・しごと総合戦略」の概要は、以下となります。

目指すべき将来の姿（人口目標）

⇒ 2040年に福島県総人口“160万人”程度の確保を目指す

基本目標	地方創生のための7つの挑戦
<p><b>I 県内に安定した雇用を創出する</b></p> <p>■工業立地件数 【現状値】172件（H25～H26） 【目標値】600件（H25～H31累計）</p>	<p><b>“しごと”づくりへの挑戦</b></p> <p>【1】 ふくしまの雇用・起業創出プロジェクト 【2】 「しごと」を支える若者の定着・還流プロジェクト 【3】 農林水産業しごとづくりプロジェクト</p>
<p><b>II 県内への新しいひとの流れをつくる</b></p> <p>■人口の社会増減 【現状値】▲2,211人（H26） 【目標値】±0（H32） ■観光入込客数 【現状値】46,893千人（H26） 【目標値】62,400千人（H31）</p>	<p><b>“ひとの流れをつくる”への挑戦</b></p> <p>【4】 定住・二地域居住推進プロジェクト 【5】 観光コンテンツ創出プロジェクト</p>
<p><b>III 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる</b></p> <p>■合計特殊出生率 【現状値】1.58（H26） 【目標値】2.16（H52）※ ※2040年に、合計特殊出生率が県民希望出生率である2.16となるよう実現を目指します。</p>	<p><b>“結婚・出産・子育ての希望をかなえる”挑戦</b></p> <p>【6】 切れ目のない結婚・出産子育て支援プロジェクト</p>
<p><b>III ひとと地球が輝くまちをつくる</b></p> <p>■「住んでいる地域が住みやすい」と思っている人の割合 【現状値】－ 【目標値】上昇を目指す（H31）</p>	<p><b>“まちづくり”への挑戦</b></p> <p>【7】 「リノベーション」まちづくりプロジェクト</p>

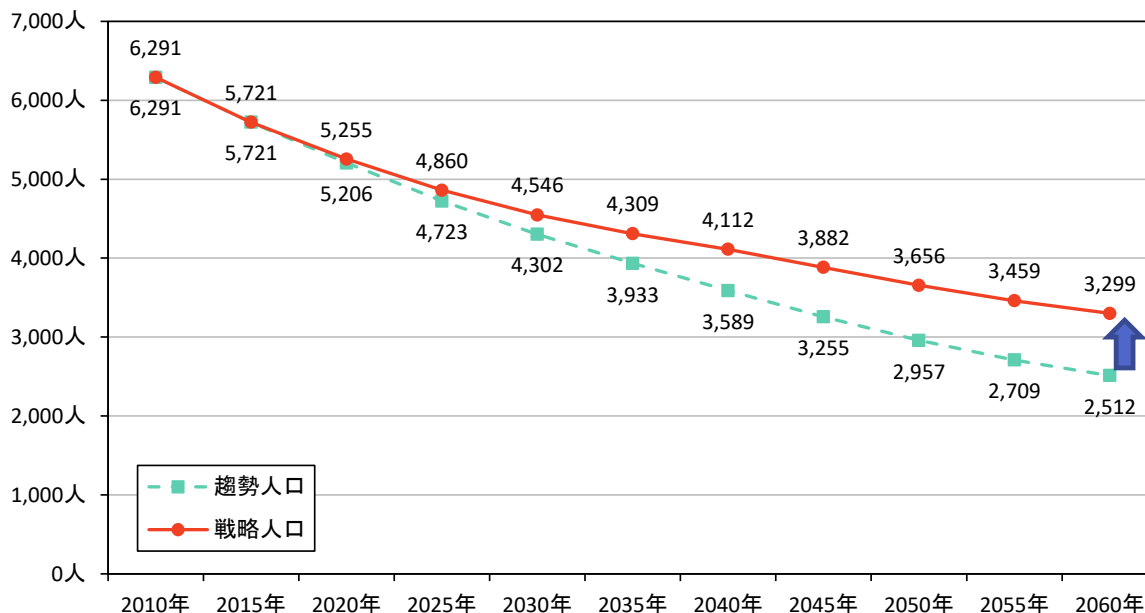
**働く場・収入の確保、地域資源の掘り起こし・磨きこみ**



## 〔策定の目的〕

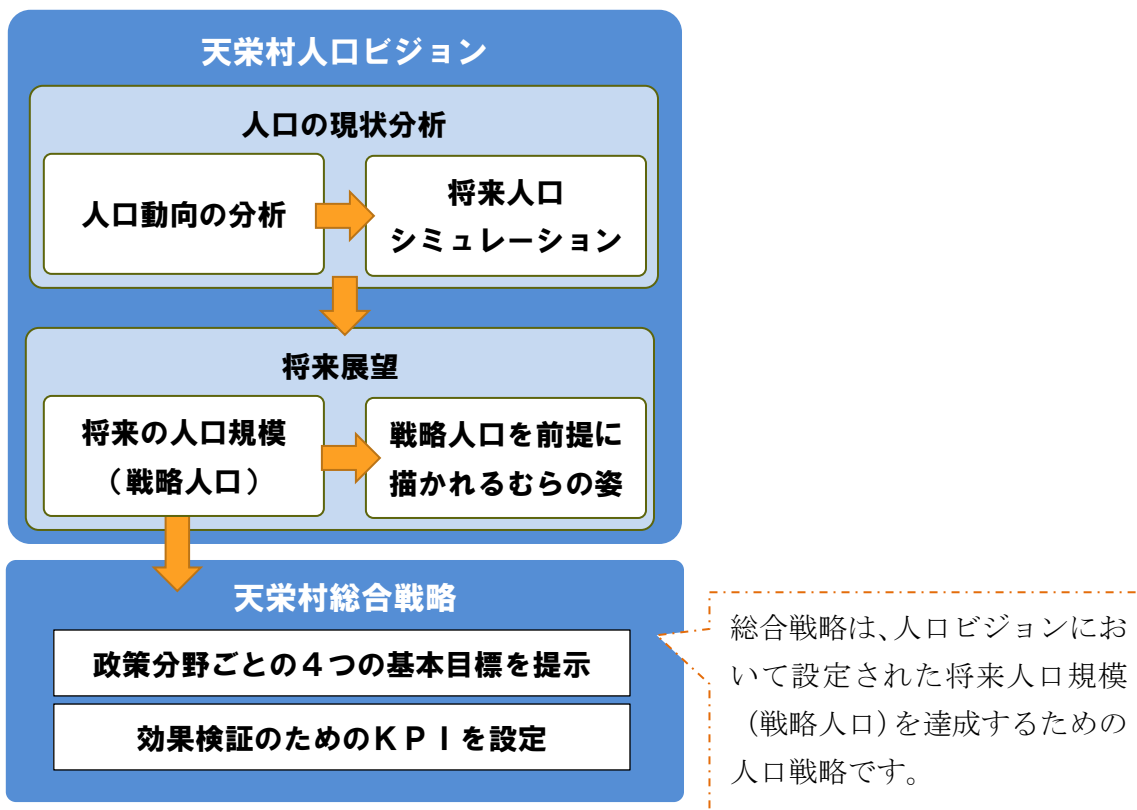
- 全国的な少子・高齢化、人口減少を背景に、天栄村における総人口は、昭和 25 年をピークに減少傾向となり、平成 22 年には 6,291 人となっています。また、平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災の影響により、近年はより減少傾向が強くなっている状況です。
- こうした人口減少は、若者人口を中心とする村外転出や長期的な少子化傾向、さらには、人口構造の高齢化に伴う死亡者数の増加等が主な原因となっています。
- 昭和 55 年～平成 22 年間の年齢 3 区分別の人口構造の推移についてみると、年少人口(0～14 歳)比率は 20.5%から 12.4%に減少したのに対し、高齢化率は 13.4%から 26.7%に増加しており、本村においても少子高齢化が進行しています。
- 「天栄村総合戦略」に先立ち策定した「天栄村人口ビジョン」においては、こうした人口動向が続いた場合、平成 52 (2040 年) の本村の人口は約 3,600 人、さらに平成 72 年 (2060 年) には約 2,500 人まで減少する見通しであることを示しています。
- 人口規模の過度の減少は、地域における消費活動を減退させるだけでなく、労働に従事する人口も減少することから、結果として地域における経済規模が縮小し、日常生活における様々なサービス・利便性が低下していくとともに、こうした都市機能・生活機能の低下により、さらに人口の転出を促すという悪循環に入り込むことが危惧されるところです。
- 本村におけるこうした人口問題に対して、「天栄村人口ビジョン」では平成 72 年 (2060 年) における戦略人口として「3,300 人程度」の人口規模を目指すことを掲げました。

### 戦略人口



- 「天栄村総合戦略」は、長期的視点からはこの戦略人口の達成を図ることを視野に、今後 5 年間の取り組みの方向性や施策等について明らかにするものです。

【人口ビジョン・総合戦略の関連】



2. 計画期間

「天栄村総合戦略」の計画期間は、5年（平成27年度～平成31年度）とします。

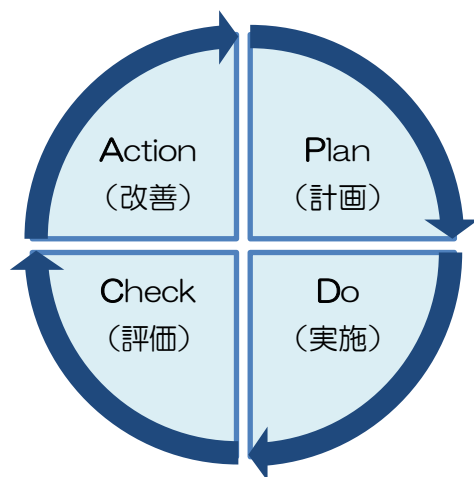
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
天栄村総合戦略	策定				

### 3. 推進・検証体制

本戦略は、村民をはじめ、産業界・県等の行政機関・教育機関・金融機関・メディア等、幅広い各層の意見を踏まえ策定しました。

今後は、「天栄村総合戦略」の推進をより実効性あるものとするために、毎年度における評価・検証とともに、その結果を踏まえ、必要に応じた計画の見直しを行うものとします。そのため、「天栄村総合戦略」においては基本目標ごとに成果指標を掲げるとともに、具体的な施策ごとに重要業績評価指標（KPI）を設定します。

今後は、基本目標やKPIを評価指標としながら、PDCAサイクルによる評価・検証の仕組みを確立します。また、検証・評価は妥当性を担保するため、検討組織への外部有識者等の参画を行います。



#### <総合戦略におけるPDCAサイクル>

- ①総合戦略の策定
- ②施策(事業)の着実な実施
- ③実施した施策(事業)の効果をKPI等により評価・検証
- ④必要に応じた総合戦略の改定



## Ⅱ. 天栄村の総合戦略

### 1. 基本的考え方と、近未来の天栄村構想としてのチャレンジプロジェクト

#### 【基本的考え方】

天栄村は古い歴史・文化の蓄積とともに、里山的な優れた環境や「日本一おいしい米」が収穫できる農業、羽鳥湖周辺の観光・リゾート施設や温泉、さらには全国的にみても個性的な英語体験学習施設等、四季折々にみせる村の豊かな表情と様々な特色ある地域資源を有しています。

しかしながら、現状は少子高齢化の波や震災被害を受け、人口は減少しそれに伴う農業後継者の不足、遊休農地や空き家の出現、若者雇用力の減退、商圈の縮小、学校等公共施設の維持問題といった様々な問題に直面しています。

このような“負の連鎖”を断ち切り、今後とも持続可能なむらづくりを図るために総合戦略の基本的考え方は、次のものとします。

- ◆ 本村の人口減少を抑制していくために、施策効果が高い取り組みを重点化するとともに、これまでにない新たな施策構築を図っていきます。
- ◆ 本村が持つ、強み、魅力、潜在的なポテンシャルティ等を最大限活用していきます。
- ◆ 施策の実効性を高めていくため、産官学金労の各関係団体や機関とともに、地域住民との協働による推進体制を構築していきます。

また、この基本的考え方のもと、総合戦略の名称を次のものとします。

## みんなが輝く村づくり戦略

～ 住んでみたい・訪れてみたいむら、

そして住んで良かったと思えるむらを目指して ～

## 【チャレンジプロジェクト】

### ＜チャレンジプロジェクトとは＞

今回策定する「総合戦略」は5か年計画（平成27年度～31年度）の計画であり、且つ、数値目標を掲げ、その達成状況を検証していくこととなっています。即ち、一定程度の実現性ある施策や事業を中心に組み立てていく必要があります。

しかし一方、人口ビジョンでは50年後の平成72年（2060年）の人口を目標として掲げ、これから取り組んでいくこととなります。

即ち、少し先のむらづくり戦略を見通した上で、これからの5か年計画である総合戦略を進めていくことが必要と考えます。

そこで、この「チャレンジプロジェクト」というのは、天栄村の近未来として目指すむらづくりに対して、キー（鍵）となるテーマを取り上げ、このプロジェクトで示す考えをもとに、総合戦略で取り組む各種施策や事業を進めていくことを基本的な考え方としているものです。

### ＜チャレンジプロジェクトの性格とその狙い＞

このプロジェクトは、天栄村の近未来に向けてのものであり、直ぐに取り組めるものもありますが、事前の準備・研究等を踏まえて行うべきものも含まれています。

また、このプロジェクトは、それぞれに相互関連性を持ち、相互の波及性が高い内容となっています。

このプロジェクトを推進していくことにより、天栄村の特色である次の4つの展開を推進していくことを狙いとしています。

- i) 農業を中心とした産業の活性化
- ii) 特色ある教育環境を活かした教育のむらづくり
- iii) 多彩な資源を活かした観光・交流の促進
- iv) 誰もが安心して暮らせる生活・福祉環境の充実

### ＜チャレンジプロジェクトの取り組み体制の考え方＞

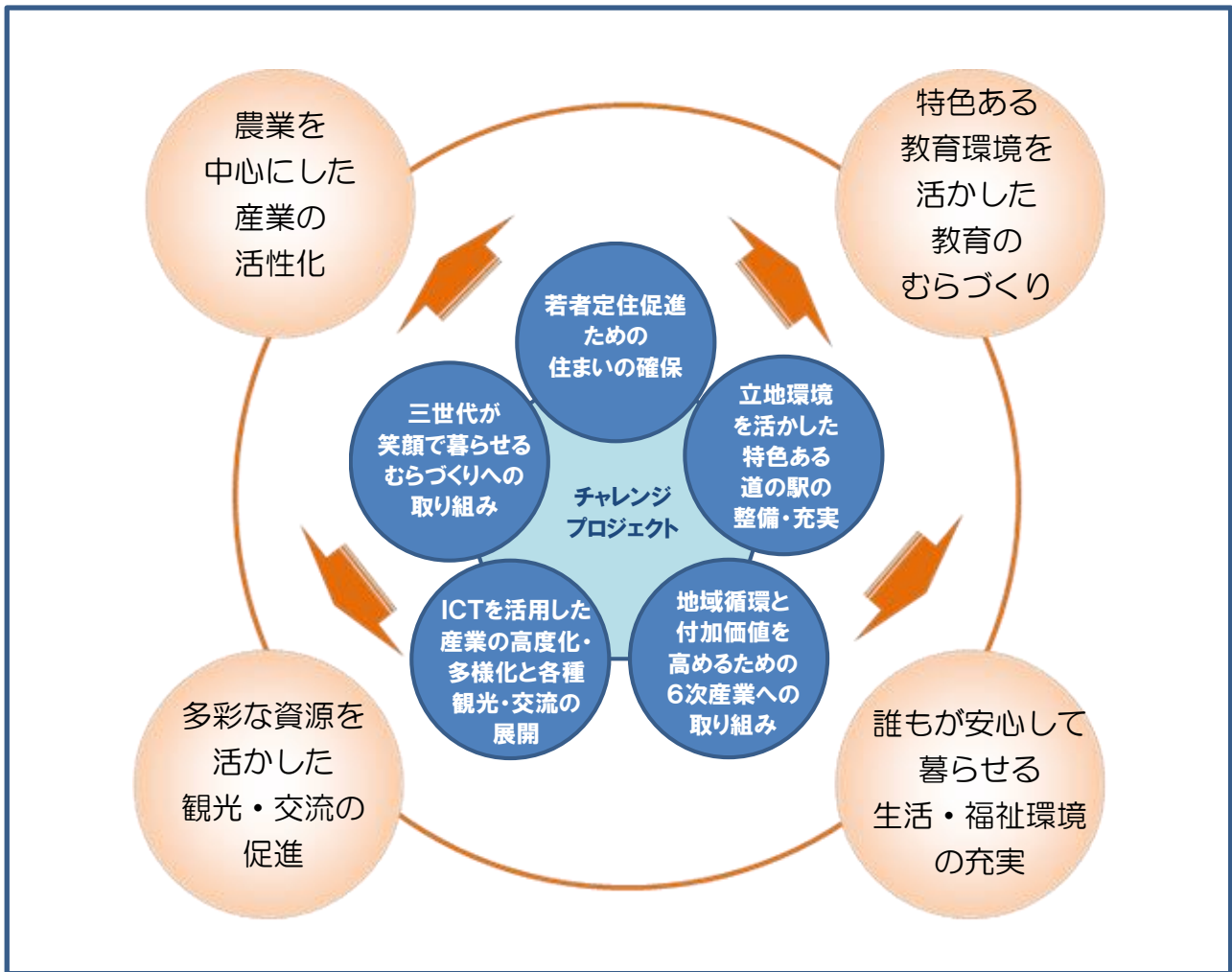
このプロジェクトは、単一部署や課・係のみで取り組む単体の施策ではなく、複数の部署が関係する横断的なものです。さらに、行政単独の事業ではなく、住民や企業との協働、あるいは地域間の連携のもとに、地域ぐるみで取り組んでいくものです。

### ＜5つのチャレンジプロジェクトとプロジェクト別内容＞

5つのチャレンジプロジェクトは、附図に示すものです。

- ◆定住促進のための住まいの確保
- ◆立地環境を活かした特色ある道の駅の整備・充実
- ◆地域循環と付加価値を高めるための6次産業への取り組み
- ◆ICTを活用した産業の高度化・多様化と各種観光・交流の展開
- ◆三世代が笑顔で暮らせるむらづくりへの取り組み

●5つのチャレンジプロジェクトと目指す主な効果



# 1. 若者の定住促進のための住まいの確保

狙い

天栄村に事業所は立地していますが、多くの方が村外からの通勤者です。製造業でみると約70%は村外からの通勤者となっており、その方々が村内に住んでいただけるだけでも、人口増加に大きく寄与します。

また、村内の若い世代の世帯分離に伴う住宅需要や、“天栄村に住みたい”“天栄村に戻ってきたい”という移住者等に対する受け入れ環境を整えるためにも、住まいの確保は重要な対策となります。

これらのことにより、住民の転出抑制、あるいは村内事業所への通勤者の転入促進、さらには、“新たな村人”としての移住者を受け入れやすくし、人口減少を抑制するとともに、子どもや若い世代・勤労世代の定住化を促進していくことを狙いとしています。

展開の考え方

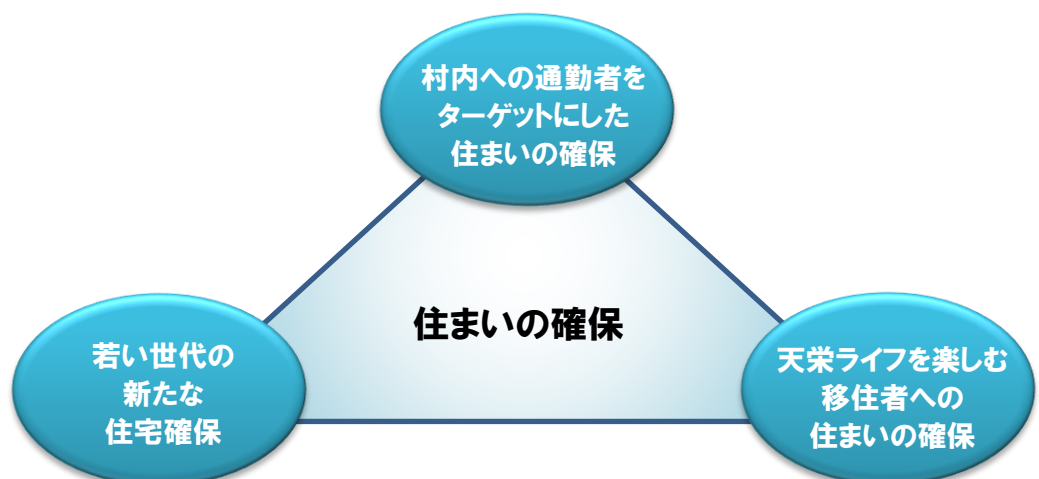
住まいの確保を図るため、主な対策として次のような取り組みを推進します。

- ▽事業者が行う住宅用地の造成やアパート建設に対する支援
- ▽空き家活用の仕組みづくり
- ▽近隣市町村への通勤、あるいはふるさと回帰を希望する方への優良宅地の提供
- ▽村内企業とタイアップした移住促進や雇用促進対策
- ▽村のブロードバンド環境の良さを活かした「SOHO」型移住\*の促進

(\*) SOHO型移住とはインターネットを活用し、田舎暮らしを楽しみながら、仕事は都市部と連携して行うスタイル。

また、“住まいの場”として天栄村の選択度を高めるために、天栄村ならではの特色のさらなる充実とPRを図ります。

- ▽里山に象徴される自然環境豊かな中での生活スタイルの享受
- ▽特色ある子どもの教育環境の充実
- ▽多様な観光・リゾートの資源の共有（観光客と住民）
- ▽ブロードバンド環境の良さ
- ▽郡山都市圏を生活圈・通勤圏にできる立地環境



## 2. 立地環境を活かした特色ある道の駅の整備・充実

狙い

天栄村には2か所の道の駅がそれぞれ違った環境に立地しています。この立地環境にふさわしい特色ある道の駅として整備・充実していくことにより、観光客の滞留性を高めるとともに、地域住民の憩いや生活サービスの拠点としての役割を持たせ、新たな雇用の場の創出や、観光客と住民、住民相互の交流の場としても機能させ、地域活性化の拠点としていくことを狙いとしています。

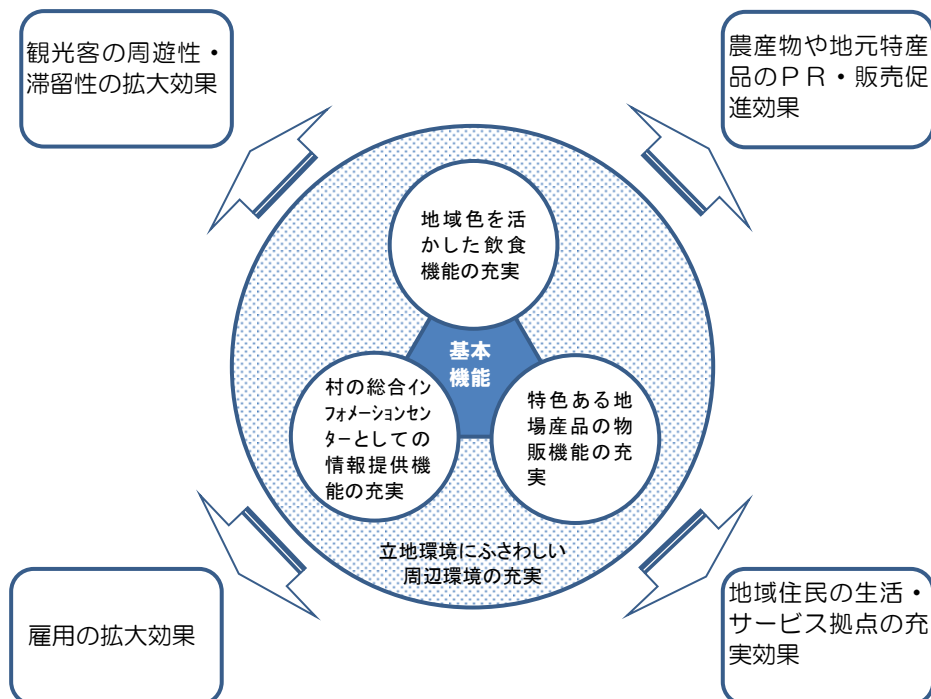
展開の考え方

道の駅の基本機能である「飲食」「物販」「情報提供」の機能の充実を図ります。

- ▽地域色を活かした飲食機能の充実
- ▽特色ある地場産品の物販機能の充実
- ▽村の総合インフォメーションセンターとしての情報提供機能の充実
- ▽立地環境にふさわしい周辺環境の充実

また、道の駅の整備・充実は次のような効果をもたらすことが期待でき、観光部門のみならず、農商工との連携や、地元住民との連携を強化することにより、その効果をさらに高めるものとなります。

- ▽観光客の周遊性・滞留性の拡大効果
- ▽農産物や地元産品のPR・販売促進効果
- ▽雇用の拡大効果
- ▽地域住民の生活・サービス拠点の充実効果



### 3. 地域循環と付加価値を高めるための6次産業への取り組み

狙い

現在、村で生産・製造した醤油・味噌・酒粕や、ヤーコン等を使用した「ヤーコンかりんとう」・「酒粕かりんとう」といった特産品がありますが、域内での加工機能や、販売チャンネルといったものは、まだ十分ではなく、地域ぐるみで6次産業化\*への取り組みが必要です。

(\*6次産業化とは、「1次(農林産物等の地域資源)×2次(加工)×3次(流通・販売)=6次の一連のシステムを地域内で構築することです。)

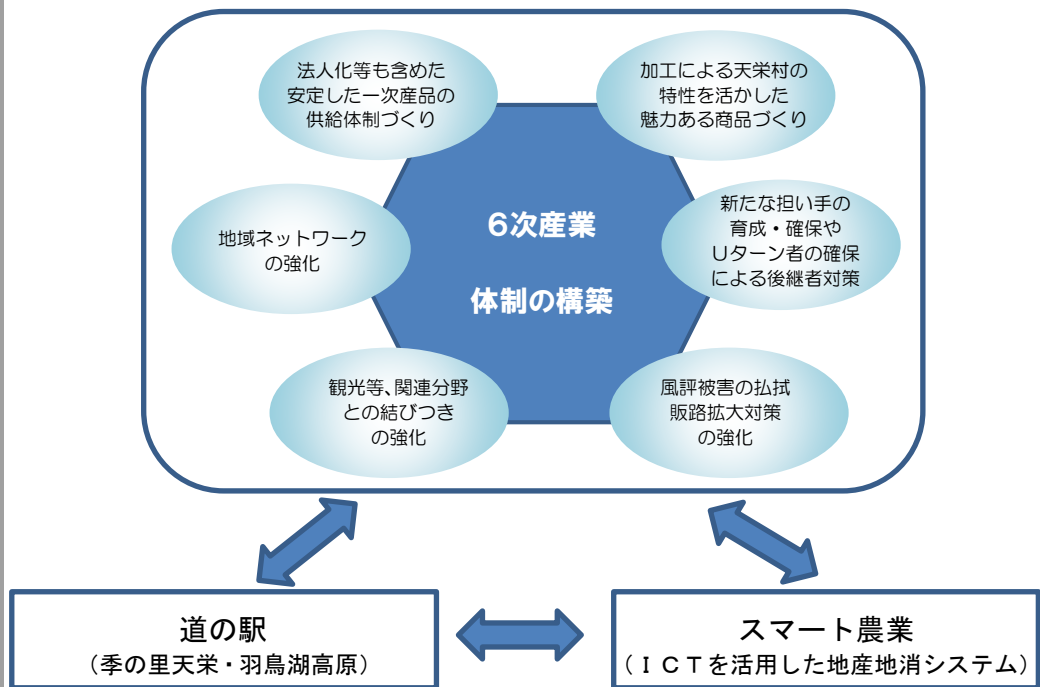
このことにより、新たな雇用の確保や作物のブランド化、あるいは流通・販売等のコスト削減につながるとともに、天栄村内での地域循環が高まり、域内収益性の向上等の付加価値を高めていくことを狙いとしています。

さらに、生産者がやりがいを持って仕事をし、年をとっても生涯現役・生涯活躍できるむらづくりに貢献するとともに、収益向上が見込まれば、一度村を離れた人も生活していけると自覚できるきっかけづくりにもつながり、村に戻って仕事を継ぐ後継者対策にもなることを狙いとしています。

展開の考え方

今後、天栄村の6次産業体制構築のための、以下の取り組みを重点的に進めます。

また、6次産業の取り組みは、道の駅との連携や現在村が進めている「スマート農業(ICTを活用した地産地消システム)」とも連動させ、さらなる相乗効果を発揮させていくものです。





## 4. ICTを活用した産業の高度化・多様化と各種観光・交流の展開

狙い

現在天栄村においては光ケーブルを全地域に敷き、ブロードバンド環境の充実を図っています。農業においても、ICT\*を活用した地産地消システムとして“スマート農業”の展開に取り組んでいます。

(\*ICTとは、Information and Communication Technology の略で、従来の「IT」に通信コミュニケーションの意味あいを加えたもの)

田舎暮らしを楽しみながら、情報ネットワークにより世界とつながり、産業・観光・生活・文化等の各面で新たな展開が可能となっています。

自然環境に恵まれた天栄村で、先端的な情報ネットワークを活用し、若者の起業を含めた各種産業の高度化・多様化を図るとともに、観光等の誘客においても、ターゲットに即した的確な情報発信の展開を図る等、村内における情報発信や住民のコミュニケーションツールとしてICT機能を活用していくことを狙いとしています。

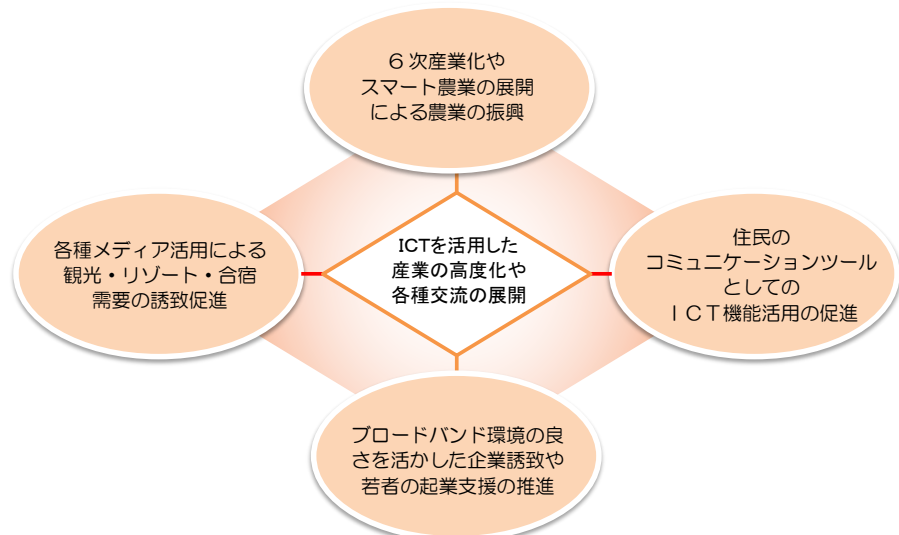
展開の考え方

田園～里山～高原までの多様な自然環境とともに、高速道路や新幹線の高速交通利用も30分圏程度の位置にあります。このような環境の中で、ICTを駆使し、“暮らしは田舎・情報は先端”といういわば“天栄ライフ”を過ごすことができる環境を積極的に活かしていきます。

産業面では、若者の起業支援やサテライトオフィスの展開、スマート農業に象徴されるICTを活用した産業の高度化・多様化を推進していきます。

また、四季を通じた観光やリゾート（温泉、スキー、避暑等）が楽しめる、合宿等にも適した条件を有している本村の優位性や魅力を、インバウンド対策も含め、ターゲットに確実に届く情報ツールを活用し、誘客展開を図っていきます。

さらに、村の各種情報発信や住民相互間のコミュニケーションツールとしてもICTの活用を高めていきます。



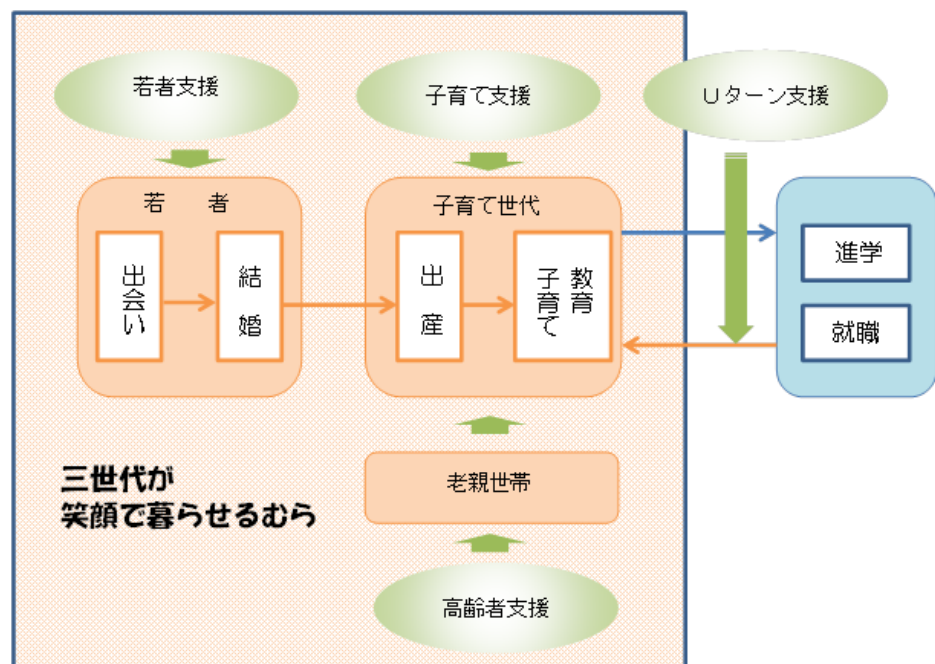
## 5. 三世代が笑顔で暮らせるむらづくりへの取り組み

狙い

現在の天栄村の出生数は、年間30人～50人で推移しています。  
 今後、村の人口減少を抑制していくためには、出生数の確保を図ることは必須条件となります。しかしながら、女性の社会進出や共働き世帯の増加等により、出生数はなかなか伸びにくい状況にあります。  
 また、高齢となっても終の棲家として安心して天栄村に住み続けることができる環境づくりは、人口減少の抑制の観点からも重要となります。  
 このような状況を鑑み、“日本のふるさと”ともいえる天栄村においては、若い世代や地域の宝でもある子どもを、老親（おじいちゃん・おばあちゃん）や地域ぐるみで支援し、子ども～親～老親の三世代がそれぞれの自己実現や生きがいを持って元気に暮らせるむらづくりを進めていくことを狙いとしています。

展開の考え方

若者の出会い⇒結婚⇒出産⇒子育て（保育・教育を含めて）という一連のライフステージに対し、切れ目のない支援体制の充実を図ります。  
 また、子育て世代のサポーターとして、元気高齢者の積極的な子育て参加の仕組みづくりを構築するとともに、高齢者が安心して暮らせる福祉環境を充実します。  
 さらに、教育面では“英語”に特色を有する本村の特徴をより活用していくとともに、一旦進学や就職で村を離れた子どもに対し、一定の経験を積んだ上で、いずれ村に戻ってくるための「Uターン」に対する支援を講じていきます。





## 2. 天栄村総合戦略の施策体系

天栄村総合戦略においては、先に示したチャレンジプロジェクトを見据えた中で、村民アンケート・ワークショップでのご意見、さらに国・県の総合戦略等を踏まえ、当面5か年の計画として以下4つの基本目標に基づき、施策・事業の展開を図ります。

基本目標	施策	
<b>基本目標1</b> 安定した雇用の確保と 地域産業力の強化	<b>地域産業の活性化</b>	1. 企業誘致 2. 商業ゾーンの形成 3. 特産品、土産物の開発・販売強化 4. 村内における雇用の拡大支援
	<b>基幹産業である 農業の生産力の向上</b>	1. 安心安全な農作物生産体制の強化 2. 農作物の販路拡大 3. 後継者対策の推進
	<b>就労支援</b>	1. 若い世代の低所得者への就労支援
<b>基本目標2</b> 若い世代の出産・子育て等 サポート体制の充実	<b>結婚希望の実現</b>	1. 出会いの場の創設
	<b>出産・子育て支援</b>	1. 出産・育児に対する経済的負担の軽減 2. 子育て環境の整備 3. 教育に対する経済的負担の軽減 4. 子育てに関する各種情報発信
	<b>特色ある学びの場の形成</b>	1. 天栄村ならではの特色ある学校づくり 2. 協働による教育環境の整備
<b>基本目標3</b> 天栄村への新しいひとの 流れの創出	<b>若者人口の増加</b>	1. 若者求心力の創出
	<b>UIJターンの促進</b>	1. UIJターンに関する情報発信 2. 移住体験プログラムづくり 3. 住まいの確保
<b>基本目標4</b> 暮らしやすい生活環境の形成	<b>観光・交流の促進</b>	1. 観光情報の発信 2. 観光拠点の整備 3. 観光資源の創出
	<b>地域連携による 経済・生活圏の形成</b>	1. 連携中枢都市圏の形成
	<b>誰もが暮らしやすい 生活環境づくり</b>	1. 高齢者も安心して暮らせる環境づくり 2. 交流の場・機会づくり 3. 若い世代のニーズの把握
	<b>既存施設の利活用</b>	1. 施設の利活用 2. 空き家の活用
	<b>消費喚起の拡充</b>	1. 村内における消費喚起の拡充

### 3. 具体的施策の展開

## 基本目標 1 安定した雇用の確保と地域産業力の強化

定住促進を図るための条件として、住む場所の確保と併せて「働く場所の確保」は必須の条件といえます。地方創生に関する村民アンケートにおいても、今後村が取り組むべきこと、重視すべきこととして「産業を振興し、雇用を拡大させて、経済を活性化させる取組」が22.8%となり、子育て支援や安心安全なむらづくりに比べ多くなっています。

#### 【基本的方向】

- ◆ 新たな企業誘致や6次産業化を含めた特産品の開発・販売強化等の地域産業の活性化により、村内における雇用の創出を図ります。
- ◆ 農業の生産体制の強化や後継者対策の推進、さらにはスマート農業（ICTを活用した地産地消のシステム）の展開、道の駅を介在した観光との連携等により、基幹産業である農業の振興を図ります。
- ◆ 若い世代の起業対策・低所得者の就労支援により、地元雇用の促進と自立を支援します。

基本目標指標	現 状	目 標
・奨励金交付事業による村内新規雇用者数	7名（1社） （H27）	30名（5社） （H27～H31 累計）

## 1. 地域産業の活性化

重要業績評価指標（KPI）	現 状	目 標
固定資産税課税免除実施数	2社（H26）	5社（H27～H31 累計）
天栄ブランド認証数	—	10件（H27～H31 累計）
6次産業化による新商品数	—	10件（H27～H31 累計）

### （1）企業誘致

○震災後の復興推進や地域の特色を活かした産業集積等を目的とした国・県による支援策の活用や、村内の指定地域に新設・増設または移転を行う企業に対する奨励金の交付等により、村内への新たな企業誘致に取り組みます。

～ 主な事業 ～

- ・東日本大震災復興特別区域法及び地域未来投資促進法による固定資産税の課税免除
- ・企業立地奨励金

(2) 商業ゾーンの形成

○策定を予定している道の駅機能拡充計画において、村中心部への店舗の集積や空き家を活かした商業スペースの整備等、商業ゾーンの形成について検討を行います。

～ 主な事業 ～

- ・道の駅機能拡充計画策定事業

(3) 特産品、土産物の開発・販売強化

○天栄村の特産物「天栄長ねぎ」「天栄ヤーコン」「天栄米」等を使った加工品の製品化、新商品の開発推進により、農林水産物の高付加価値化を図ります。さらに、村独自の「天栄ブランド認証制度」を設け、村が推奨する特産品等を「天栄ブランド」と名付けることにより、村の農林水産物や加工品の信頼性向上と消費及び販路拡大を図ります。

○観光消費額の増加や村の認知度向上に向けて、マスコットキャラクター“ふたまたぎつね”を使用した商品の制作・販売を行います。



村内で生産製造した醤油、味噌、酒粕、ヤーコン等を使用した「ヤーコンかりんとう」や「酒粕かりんとう」等



“ふたまたぎつね”を商品化したぬいぐるみ、ストラップ

～ 主な事業 ～

- ・6次化支援事業
- ・天栄ブランド化推進事業
- ・村をアピールするグッズ制作

(4) 村内の雇用の拡大支援

○村内に住所を有する雇用者を一年以上雇用している事業者への奨励金の交付等により、村内における雇用の拡大を支援します。

○金融機関との連携による起業対策を含めたビジネスマッチングの機会づくりや、商工会との連携による事業所支援等、村内企業力の強化と雇用の拡大を支援します。

～ 主な事業 ～

- ・雇用促進奨励金

## 2. 基幹産業である農業の生産力の向上

重要業績評価指標(KPI)	現 状	目 標
農産物販売金額	129,575 万円 (H22)	142,533 万円 (H31)
後継者定着数	—	3名 (H31)
就農相談件数	—	10 件 (H31)

### (1) 安心安全な農作物生産体制の強化

- 農業用水浄化に向けた放射性物質等の測定や除去及び吸収抑制対策の実施、県知事の認定を受けたエコファーマーの推進等、安心して安全な農作物の生産を支援します。
- 雪室による野菜や加工品等の雪中貯蔵の実証や、新規作物(灰汁なしワラビ、ミニトマト、カボチャ、エゴマ等)の栽培実証を行うための苗代の補助等、新たな生産体制の確保への取り組みを支援します。
- 農業用パイプハウスや大型機械の更新・新規導入の支援、有害鳥獣による農作物被害防止のための電気柵購入の補助等、農業の生産性向上への取り組みを支援します。

#### ～ 主な事業 ～

- ・農業用水浄化計画事業
- ・農作物保存実証事業
- ・実り豊かなふくしまの産地整備事業
- ・環境にやさしい農業拡大推進事業
- ・経営体育成支援事業
- ・新規農作物栽培実証事業

### (2) 農作物の販路拡大

- 個人農家、米栽培研究会等による都心部への販売強化の支援や、イベント時における農産物ブースの設置等のPRにより、農作物の販路拡大を図ります。
- 道の駅や村内の宿泊施設・飲食店等とも連携したスマート農業の推進により地産地消を強化していきます。



#### ～ 主な事業 ～

- ・「ふくしま道の駅空の駅まつり」の共同開催
- ・「道の駅サマーフェスティバル」の実施
- ・「ふくしまプライド。」販売力強化支援事業

### (3) 後継者対策の推進

- 農業後継者の地元定着を図るため、視察・研修を通じた技術の向上を支援します。
- 地域の新たな担い手として、新規参入による新規就農者が増加傾向にある中、地域における受け入れ体制の強化を図るため、地域の状況に応じ、特徴ある新規参入者の産地見学会や就農相談等の呼び込みや、定着化に取り組む新規就農支援組織等の運営支援・情報発信等のサポートを行います。

#### ～ 主な事業 ～

- ・後継者視察研修補助
- ・新・農業人サポート事業

## 3. 就労支援

重要業績評価指標(KPI)	現 状	目 標
自立支援事業による相談、就労支援件数	相談 5件 就労支援 1件 (H27)	相談 30件 就労支援 5件 (H27～H31 累計)

### (1) 若い世代の低所得者への就労支援

- 若い世代の低所得者に対し、一人ひとりの状況に合わせた支援プランを作成し、専門の支援員が寄り添いながら他の専門機関と連携して、解決に向けた支援を行います。

#### ～ 主な事業 ～

- ・生活困窮者対策の自立支援事業

## 基本目標 2 若い世代の出産・子育て等サポート体制の充実

我が国における人口減少、少子高齢化、東京一極集中といった人口問題において、出生数の増加を図る少子化対策は、最も根本的な人口対策といえます。

天栄村では、地方創生に関する村民アンケートにおいて、“理想とする子ども数”は“現在の子ども数”の2倍以上となっています。今後は、理想的な子ども数の実現に向けた支援とともに、長期的な視点から、将来的に結婚・出産・子育てを控える若者人口の増加に向けた取り組みが必要とされます。

### 【基本的方向】

- ◆ “子育てするなら天栄村”と思われるむらを目指し、安心して出産・子育てできる環境整備の推進により、出産希望の実現を支援します。
- ◆ 天栄村の特色を活かした学校づくりを推進し、国際社会に対応した人材の育成を図ります。
- ◆ 人口減少の抑制・地域の活性化を図るため、若者が集い、地域に定着するむらづくりを推進します。

基本目標指標	現 状	目 標
・ 合計特殊出生率 ・ 出生数	1.24 (H22~H26 平均) 202 名 (H22~26 累計)	1.61 (H27~H31 平均) 190 名 (H27~H31 累計)

## 1. 結婚希望の実現

重要業績評価指標(KPI)	現 状	目 標
婚活イベントによる婚約数	0組 (交際成立数 16組 (H27))	5組 (H31)

### (1) 出会いの場の創設

○若い世代の結婚に関する希望の実現に向け、婚活イベントや独身者コミュニティ講座の開催に積極的に取り組むことにより、出会いの場の創出を図ります。

○自治体間連携による独身マッチングのための情報連携システム構築を検討します。





～ 主な事業 ～

- ・ 出会いの里事業

## 2. 出産・子育て支援

重要業績評価指標(KPI)	現 状	目 標
特定不妊治療費助成による妊娠成功件数	1 件 (H26)	3 件 (H27～H31 累計)
周産期死亡数	—	0 (H31)

### (1) 出産・育児に対する経済的負担の軽減

- 子どもを持つことを希望し不妊治療を行う方に向けて、不妊治療費の一部助成を行います。
- 出産希望の実現や子育て家庭の経済的支援の観点から、出産祝い金の支給や子どもの医療費助成、多子世帯への保育料の軽減、チャイルドシートの購入補助等に取り組みます。

～ 主な事業 ～

- ・ 天栄村特定不妊治療費助成事業
- ・ こども医療費助成制度 (18 歳まで無料)
- ・ 子育て支援保育料負担軽減補助金 (第3子以降の保育料の軽減)
- ・ 子宝祝い金
- ・ チャイルドシート購入補助金交付

### (2) 子育て環境の整備

- 就学前の子どもやその保護者に向けて、子どもたちが安心して遊べる場所の提供や、親子のふれあい・保護者同士の交流を目的としたイベントの開催等、安心して子育てできる環境づくりに取り組みます。
- 放課後の子どもの安全で健やかな活動場所を確保し、子どもの健全な育成を図るため、各小学校において「放課後子ども教室」や「放課後児童クラブ」を実施します。
- 心身に障害のある子どもとその保護者に向けた支援体制を強化するため、交流の場の創出や講演会の開催に取り組みます。
- 平成 29 年2月完成予定の公立岩瀬病院内における産科・婦人科立ち上げをはじめとした周辺地域との連携により、住民誰もが安心して出産・子育てできる地域医療体制の充実を図ります。



“わんぱく広場”の様子

～ 主な事業 ～

- わんぱく広場（就学前児童とその保護者同士の交流）
- ぴよぴよくらぶ、なかよしくらぶ（親子のふれあいや保護者の交流）
- 放課後こども教室、放課後児童クラブ
- ぽかぽか教室（心身に障害のある子どもをお持ちの方を対象にした交流の場や講演会の開催）
- ままかふえ（子育て中の親を対象にした交流や相談の実施）
- 産科小児科確保事業

**（3）教育等に対する経済的負担の軽減**

- 中学卒業及び高校進級にあたり、生活準備金の支給や、下宿やアパート暮らしの学生を対象にした生活支援金の支給を行います。
- 教育資金を借りている方を対象に、教育資金借り入れの援助として利子分の補助を行います。
- ひとり親家庭に対する医療費の助成等の支援を行います。

～ 主な事業 ～

- 生活支援金
- 教育資金利子補給制度
- ひとり親家庭医療費助成や児童扶養手当の支給

**（4）子育てに関する各種情報発信**

- 子育てに関する不安の軽減や子育て家庭の孤立化を防ぐため、子育てに関する情報の充実を図るとともに、定期的な子育て情報誌の発行により、情報の周知に努めます。

～ 主な事業 ～

- 子育て情報誌の発行



### 3. 特色ある学びの場の形成

重要業績評価指標(KPI)	現 状	目 標 (平成31年度)
全国学力・学習状況調査 (問題全国平均正答率との比較)	全国平均と同程度	全国平均を上回る
英検3級取得率(中学校卒業まで)	15%(合格者7名)(H26)	30%(H31)

#### (1) 天栄村ならではの特色ある学校づくり

- 平成26年度の指定以降「つなぐ教育」を引き続き推進し、幼・小・中が連携・接続できるよう、各校園における特色ある取組を共有したり、共通実践事項を見出したりし、日々の授業改善や次年度の教育課程編成、小1プロブレムや中1ギャップの解消に生かします。
- 天栄村の「ひと・もの・こと」に対するよさを発見し、愛村心を育む「ふるさと教育」を推進し、村の人材や施設、農産物、歴史等を通して村のよさを学ぶ教育課程の編成と実施及び、地域素材の教材化に取り組みます。
- 学力向上を主旨とした少人数学級のよさを生かした学習指導のあり方について、指導主事を各校園に派遣し、授業改善に取り組みます。
- いじめの未然防止や不登校対策として、各校園の実態を把握し、各校園の要請に対応するスクールソーシャルワーカーの有効な活用を推進します。○「英語の村 てんえい」として国際社会に対応した人材育成を目指し、異文化・国際理解教育、英語教育等、国際色豊かな教育の充実に取り組みます。
- 具体的には、ALT派遣による外国語教育・国際交流活動の促進や、中学校在学中にすべての学生の英検3級取得を目標とし、英語検定受験料の補助を行います。また、村内の英語体験学習施設との連携により、異文化体験事業の実施や、幼少期から継続して本場の英語を体感することによる英語教育の充実を図ります。
- ICT教育推進の一環として、天栄村の小・中学校では電子黒板の全クラスへの導入、タブレットパソコンの各クラス1台の配備が完了しており、今後はこれらの情報通信技術を活用した教育内容の充実に取り組みます。



○村内の小・中学校を対象に、各学校独自の教育活動を行うための活動費の補助により、特色ある学校づくりを支援します。

また、今後の検討課題として、例えばスポーツ選手OBに地域おこし協力隊等として参加していただき、村のスポーツ教育推進に取り組んでいただく等の手法について検討していきます。



湯本小・中学校においては、周辺施設を活用したゴルフ活動を実施。

## ～ 主な事業 ～

- ・つなぐ教育推進授業研究会（理科・外国語活動・英語）
- ・幼小中連携授業研究会（各校園1回ずつ開催。他校の授業を参観）
- ・小小連携事業（超小規模校である湯本小の弱みを解消する大里小との交流学习15回）
- ・5歳児教育相談（3歳児検診から就学時検診までの期間をつなぐ相談会2回）
- ・公営塾サマースクールてんえい（夏季休業中に2日間実施）
- ・天栄版「ふるさと教育」推進のための「歴史学び教室」の実施
- ・指導主事並びにスクールソーシャルワーカーの派遣事業（随時）
- ・村教職員「外国語活動」研修会（神田外国語大学より講師を招聘した研修会）
- ・英語検定3級合格を目指した受検料補助（中学生対象）
- ・特色ある学校づくり支援事業
- ・外国語青年招致事業（JETプログラム・ALT派遣による外国語教育・国際交流活動の促進）
- ・英語体験学習施設や大学との連携英語推進事業（異文化体験事業の実施等）
- ・2020年大学入試制度改革に対応する「オンライン個別英会話」の実施（小・中学生対象）
- ・国際交流協会ホームステイ事業
- ・ICT教育推進活用事業

## （2）協働による教育環境の整備

○本村の基本理念の一つでもある「学校は一つ」のスローガンのもと、村内の1園6校の連携を密にするため、関係機関及び職員との連携強化を図るとともに、学校・家庭・地域が一体となった子どもの教育環境の整備を推進します。

○H29年度より県のモデル事業として委託を受けた「地域学校協働活動事業」を活用し、学校運営協議会（コミュニティ・スクール）による「協働の村づくり」を目指した地域が学校を支える体制づくりを推進します。

○児童生徒が主体的に地域住民とともに活動する各種行事への参加やボランティア活動を推進します。

○ボランティア人材の拡充を図り、児童生徒の夢や希望の実現に向けた職場体験等によるキャリア教育を推進します。

○各校園の要望に応える「地域学校協働活動事業」を推進し、学校の多忙化解消に努めます。

～ 主な事業 ～

- ・AR活用事業  
(村民と中学生による協働の地域ガイドマップ作成、村行事の活性化に生かすAR活用等)
- ・放課後の学習支援・部活動支援
- ・学校運営協議会委員による学校参観・教育課程の承認
- ・地域コーディネーターによる各校園の要請の実現

## 4. 若者求心力の創出

重要業績評価指標(KPI)	現 状	目 標
若者をターゲットにした交流会・イベントの開催	—	50～100名(H31)

### (1) 若者の集いの場の創出

○策定を予定している道の駅機能拡充計画において、若い世代に向けた生活サービス機能の充実についての検討や、地域の若者の情報交換の場の創出や各種イベントの実施等、若い世代が集い、地域に定着するむらづくりを推進します。

～ 主な事業 ～

- ・道の駅機能拡充計画策定事業(再掲)
- ・若者が主役となれるイベントの開催(ボクらの音楽会)

## 基本目標 3 天栄村への新しいひとの流れの創出

天栄村における近年の社会動態（転入、転出）は、一貫して転出超過の範囲で推移しており、状況の改善が求められます。

今後は、“住みやすいむら”としての環境整備の推進による転出抑制対策とともに、積極的な転入促進対策を進めることにより、転入超過への転換に向けた取り組みが必要とされます。また、観光・交流人口の拡大といったもうひとつのひとの流れの創出により、むらのにぎわいを創出する取り組みも重要となります。

### 【基本的方向】

- ◆ UIJターンや二地域居住を希望する方や、地元の若い世代あるいは村内への通勤者に向けた住まいの確保等、各種支援策の拡充により、転入促進を図ります。
- ◆ ターゲットに即してテーマ性ある情報発信を強化し、観光・交流人口の増加による新たなひとの流れの拡大により、むらの活気・活力の創出を図ります。
- ◆ 国内・海外にいる外国人の方にも実際来てもらい体験してもらい村を知っていただき、人から人への情報発信の相乗効果を図ります。

基本目標指標	現 状	目 標
・純移動数（転入-転出）	▲57人 (H22~H26 平均)	▲49人 (H27~H31 平均) (5年間で15%の抑制)

## 1. UIJターンの促進

重要業績評価指標(KPI)	現 状	目 標
移住・二地域居住問い合わせ件数	3件 (H26)	100件 (H31)
田舎暮らしモニターツアー参加者数	116名 (H27)	80名 (H31)
短期滞在利用者数	2人 (H27)	20人 (H31)
空き家バンク相談件数	—	50件 (H31)
片づけ・リフォーム補助利用件数	—	3件 (H31)

## (1) U I Jターンに関する情報発信

○U I Jターンや二地域居住を希望する方に向けた情報の充実を図るとともに、ホームページやSNS、プロモーションビデオ等を活用した情報発信の強化に取り組みます。

### ～ 主な事業 ～

- ・U I Jターン・二地域居住情報発信事業
- ・移住コーディネーター配置事業

## (2) 移住体験プログラムづくり

○U I Jターンや二地域居住を検討している方に向けた「田舎暮らしモニターツアー」の実施や短期滞在を支援し、地域の生活や人柄に実際に触れる機会を提供することにより、移住・定住の促進を図ります。



### ～ 主な事業 ～

- ・田舎暮らしモニターツアー事業
- ・短期滞在支援事業

## (3) 住まいの確保

○U I Jターンや二地域居住希望者、あるいは地元の若い世代や村内への通勤者等に対する住まいの確保を図るため、空き家に関する情報発信や空き家活用への補助金の交付に加え、住宅取得者への助成や、住宅・アパート建設促進を行い、新たな取り組みとして事業者等による住宅土地造成の検討なども視野に入れ、住宅の受け皿の確保を図ります。

また、空き家の活用については、外国人観光客の宿泊施設（低廉・中長期滞在ハウス）や二地域居住者用宿泊施設、旅館等の従業員宿舎としての活用等、多様な工夫・検討を行っていきます。

### ～ 主な事業 ～

- ・空き家バンク事業
- ・空き家活用事業（片づけ補助・リフォーム補助）
- ・新生活住まいづくり応援成金事業
- ・民間賃貸住宅建設事業



## 2. 観光・交流の促進

重要業績評価指標(KPI)	現 状	目 標
観光入込客数	330 千人 (H26)	530 千人 (H31)
無線LAN拠点数	—	5件 (H27～H31 累計)
合宿誘致数	14 団体 (H27)	100件 (H31)

### (1) 観光情報の発信

○天栄村の知名度向上や観光入込客数増加に向けた取り組みとして、観光大使やゆるきゃらによる各種イベントでのPR活動の強化を図ります。

○観光協会及び地域おこし協力隊によるホームページ・Facebookの開設やプロモーションビデオの制作等の情報発信媒体の多様化への取り組みや、「日本橋ふくしま館 MIDETTE」での特産品の常時展示・販売等、村の情報発信・PRの充実を、国際化の視点も含めて展開します。

○若手の映画作家・監督を支援し、村内に映画のロケ地を誘致するとともに、その過程をSNS等によって発信することにより、“映画”をテーマとした地域の活性化と交流人口の拡大を図ります。



#### ～ 主な事業 ～

- ・観光大使による各種イベント・PR活動
- ・観光大使のPR・接遇講習の実施

### (2) 観光拠点の整備

○観光客の利便性向上の観点から、役場や道の駅等での公衆無線LANスポット「天栄 Free WiFi」の整備による無料インターネット接続環境の提供や、急速充電器用カーポートの整備を推進します。

○策定を予定している道の駅機能拡充計画においては、道の駅の観光資源としての機能拡充について検討を行います。



#### ～ 主な事業 ～

- ・道の駅における観光情報発信基地機能の整備（公衆無線LAN等）
- ・道の駅機能拡充計画策定事業（再掲）

### (3) 観光資源の創出

- 村の文化祭・スポーツフェスティバル・商工祭等のイベント開催により、交流人口の拡大を図ります。
- 中学生～大学生の部活・サークル等を対象とした県内外の文化・スポーツ合宿の誘致等、学生に向けた誘致戦略を推進します。
- 会津地方との連携や外からの目としてエージェントとの連携を図り、資源の見直しとともに、地域の個性を活かした着地型旅行商品の造成を図り、新たなルートを構築するとともに、誘客力の強化を推進してきます。

#### ～ 主な事業 ～

- ・てんえい元気祭の実施
- ・合宿誘致助成事業（合宿旅費補助、合宿誘致キャラバン）

## 基本目標4 暮らしやすい生活環境の形成

今後予想される人口減少を抑制するために様々な取り組みを進める一方で、人口減少社会においても現在の村の活気を維持し、さらに向上させるための仕組みについて考えていくことも重要となります。

今後は、人口減少社会を見据えた上で、住民誰もが暮らしやすいと思えるむらづくりを進めるとともに、地域における人と人とのつながりを育て、地域の活性化を促進するための取り組みが求められます。

### 【基本的方向】

- ◆ 地域コミュニティの創出や、既存施設の利活用等、人口減少社会を見据えた新たなむらづくりを推進します。
- ◆ 住民誰もが暮らしやすいと思える生活環境づくりの推進により、定住促進を図ります。
- ◆ UIJターン等で移住された方と地域住民との積極的な交流を図り、“新村人”として地域ぐるみで受け入れていく環境づくりを推進します。

基本目標指標	現 状	目 標
・“住みやすい”と答えた人の割合	51.8% (H27)	72.5% (H31)

### 1. 地域連携による経済・生活圏の形成

重要業績評価指標(KPI)	現 状	目 標
郡山広域圏における連携の推進	—	継続 (H27~H31)

#### (1) 周辺地域との連携体制の形成

○人口減少・少子高齢社会においても、活力ある地域経済を維持し、持続可能な都市圏を形成するため、医療体制の充実等の生活機能サービスの向上、広域的な観光PRの促進、首都圏における移住・定住に向けた情報活動の推進等、郡山広域圏の多方面における連携の推進に取り組みます。

○会津方面との連携についても、将来的には通学や通勤のつながり、あるいは広域観光ルートとしての連携等についても検討していきます。

#### ～ 主な事業 ～

- ・連携中枢都市圏の構築



## 2. 誰もが暮らしやすい生活環境づくり

重要業績評価指標(KPI)	現 状	目 標
グループホーム（民間）設置数	—	1か所（H31）
バス・タクシー利用券の利用件数	4件（H27）	30件（H31）
送迎車利用件数	—	50件（H31）
水中ウォーキング事業開催回数	25回（H27）	44回（H31）
来てよかったない事業参加者数	—	20～40人（H31）

### （1）高齢者も安心して暮らせる環境づくり

○高齢化の進行に伴い、今後も増加することが予想される高齢者人口のニーズに対応するため、グループホームやデイサービスの新設、特別養護老人ホームの増床等、高齢者施設の充実に取り組みます。

○いつまでも住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、要介護状態等となることの予防や自立した日常生活の支援を目的とした新たな介護予防事業を推進します。

○運転免許のない高齢者等の買い物や病院等に行く際の交通利便性を確保するため、バス定期券・タクシー利用券の助成を行います。また、村全体の公共交通については、ワゴン車のリースによる送迎や、デマンド交通システムの導入など、住民のニーズや費用対効果などを考慮して総合的な検討を進めます。○元気高齢者の増加を目指し、高齢者の生きがいづくりや健康増進対策の推進を図ります。



特別養護老人ホーム“天栄ホーム”

### ～ 主な事業 ～

- ・高齢者等バス・タクシー利用助成事業  
(湯ったりミニデイサービス事業、水中ウォーキング事業、高齢者向けサロンの実施)

### （2）交流の場・機会づくり

○生涯学習センターを中心とした各種教室を開催し、共通の趣味をもつ村民同士の交流の場を設けることで様々な世代間の交流の促進や地域活動の活性化を図ります。

○毎年開催される「成人式」においては、10歳（小学4年生）の「1/2成人式」を同時開催し、式終了後には合同の交流会を行うことにより、若い世代の交流の機会を創出します。

○U I Jターン等、新たな住民の相互間交流、及び地元の住民との交流を促進し、村一体としての交流促進の仕組みづくりを推進します。

～ 主な事業 ～

- ・来てよかったない（世代間交流）事業
- ・成人式、1/2成人式の開催

(3) 若い世代のニーズの把握

○18歳～30歳までの男女を対象にした定期的なアンケート調査の実施により、若い世代のむらづくりに対するニーズの把握に取り組みます。

～ 主な事業 ～

- ・若者ニーズアンケート調査の実施

### 3. 既存施設の利活用

重要業績評価指標(KPI)	現 状	目 標
生涯学習センター・ 体育施設利用者数	生涯学習センター 43,568人(H26) 体育施設 29,680人(H26)	生涯学習センター 52,300人(H31) 体育施設 33,600人(H31)

(1) 施設の利活用

- 体育協会や社会教育団体に加盟・登録した場合に、体育施設や学習施設の使用料の免除や早期予約の受付を実施する等、村内における各種施設の利用者数の増加に向けた取り組みを行います。
- スキー場、ゴルフ場、キャンプ場等、村内にある多種多様な余暇施設の利用率向上に向けて、一層のPR強化に取り組みます。



～ 主な事業 ～

- ・各種イベント・大会及び練習による村保有施設の有効活用
- ・村民の健康増進と交流機会の創出

## (2) 空き家の活用

○安心・安全なむらづくりや地域の活性化の観点から、空き家物件に関する円滑な流通・マッチングの推進や空き家の利活用に取り組みます。

### ～ 主な事業 ～

- ・空き家バンク事業（再掲）
- ・空き家活用事業（片づけ補助・リフォーム補助）（再掲）

## 4. 消費喚起の拡充

重要業績評価指標(KPI)	現 状	目 標
ふるさとサポーター会員数	800名（H26）	800名（H31）

### (1) 村内における消費喚起の拡充

○商工会によるプレミアム商品券の発行や、「ふるさとサポーター会員」の募集による村産品のPRの実施によって、村内の消費喚起を促します。

### ～ 主な事業 ～

- ・消費喚起プレミアム商品券発行事業
- ・ふるさとサポーター事業

**平成 28 年 3 月発行**  
**平成 30 年 5 月改訂**  
**発行：天栄村企画政策課**

〒962-0592  
福島県岩瀬郡天栄村大字下松本字原畑 78  
T E L : 0248-82-2111  
F A X : 0248-82-2718  
<http://www.vill.tenei.fukushima.jp/>